

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 溪仁会	代表者	谷内 好	法人・ 事業所 の特徴	札幌市では、南区に次いで厚別区の高齢化率が高く推移している。小規模多機能型居宅介護あおばは、その中で青葉地区を中心に高齢者を支えている単独型事業所である。利用者さんは独居世帯が多く、認知症を有する割合も高い。その状況下で地域の方々、主治医との連携を重視し、今までしてきた生活に寄り添った支援を柔軟に展開しています。住み慣れた自宅、地域での生活の限界点を引き上げることが出来るように、個別機能に応じた自立支援を行っています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護あおば	管理者	漆坂 司		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	4人	0人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価の各項目での改善計画に準じる。 利用者さんのギャラリーコーナーや趣味活動の場を提供できるようにしつらえ等も工夫している。	他、取組み、結果については事業所自己評価、ミーティング様式の各項目に準じる。	コロナの影響が続いているが、感染対策を継続しながら取り組みたい。 5種への移行を待ち様々な取り組みにトライしていきたい。	事業所自己評価の各項目での改善計画に準じる。 スタッフ間、利用者さんとのコミュニケーションが不足しているとの意見が挙がっていた。コミュニケーションの重要性を再認識し共有していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	個別スペースの設置については今後も継続、音楽スペースの設置や椅子などのレイアウト変更を行なっていくことで、さらに落ち着いた場所を提供していく。	広報活動を継続する。 事業所に入りやすいように玄関周りの外観を整え明るい環境作り。事業所内のしつらえを見直した。感染対策の徹底。	コロナの影響もあり、レク活動もまともに実施できていない現状。次年度は徐々に活動も行えていくと思われるが、感染対策を継続し状況をみながら実施していく。	事業所内レイアウトの変更。個別スペースの作成。事業所として地域に溶け込めるような活動を実施していきたい。感染対策を継続しレク活動を実施する。
C. 事業所と地域のかかわり	SNS を利用した取組みが中心となる。地域での活動などの工夫についても引き続き確認を行っていく。	コロナ禍で機会が限定されていた為仕方ないことだと思う。町内会の方に声をかけるなど具体的な対応をすすめる必要がある。	運営推進会議について次年度は通常に近い形で開催できると思いません。メンバーの発掘等地域に入り込んでいく機会を作る。	運営推進会議メンバーの発掘。地域の行事や集会などに積極的に参加していく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナの影響が強くなかなか地域行事への参加が出来ていない現状である。	コロナ禍でチャンスは少なかったと思うが、児童館の子供たちとの触れ合いもあり 5 種への移行を待つ様々なトライを行っていく。登録利用者様中心の関わりから、今後は地域の方とも関わって行けるように今後も継続して行く。	職員それぞれの視野を広げ地域の中での活動を意識する。又、経験や技術を向上していけるよう取り組んでいきたい。	職員のスキルが向上するような取組みを継続する。事業所として地域の拠点になれるような取組みを行う。児童館交流については再検討する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議についても開催が難しい現状である。	運営推進会議については、感染状況を見ながらの不定期開催であった。次年度は感染状況も落ち着いてくることが予測され通常開催を予定している。会議のメンバーについては、地域包括支援センター以外の職員についても積極的に声掛けを行っていく。	前年から運営推進会議に地域の方をどう巻き込んでいけるか検討していたと思う。コロナなどの感染状況が落ち着くだろう次年度よりさらに地域に開かれた運営推進会議の開催を期待する。	運営推進会議メンバーの発掘。より地域に開かれた会議を目指していく。
F. 事業所の防災・災害対策	災害計画、備蓄などの見直しを定期的に継続する。	地域の防災訓練への参加は出来なかった。防災計画の見直し。外部講師による救急法の開催はできていない。備蓄や災害時の対応マニュアルの作成。	町内会との結びつきを強めることで防災訓練への声掛けなどに繋がられると思います。	防災計画の見える化。消防団への協力依頼。防災グッズの点検と見える化。

